



洗淨・清拭の確認、改善に！

見た目がキレイになっていても、目に見えない汚れはたくさんあります。目に見えない汚れは、感染症における感染源になる場合がありますので、特に高頻度手指接触表面は、きちんと汚れを取り除くことが必要です。

また、器具を確実に滅菌するためには、洗淨は非常に重要な作業です。洗淨の確認・改善にもお役立てください！

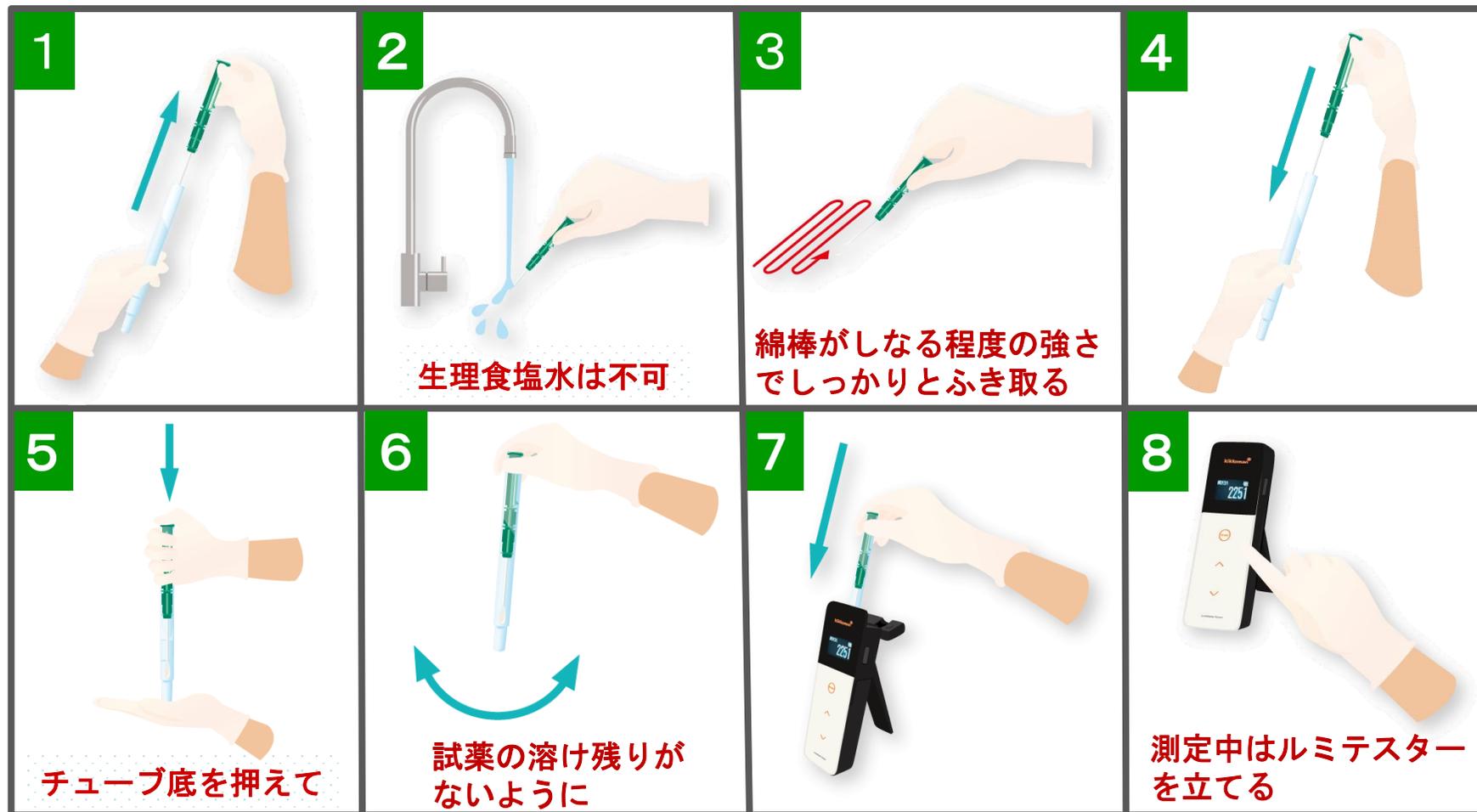
検査箇所（例）



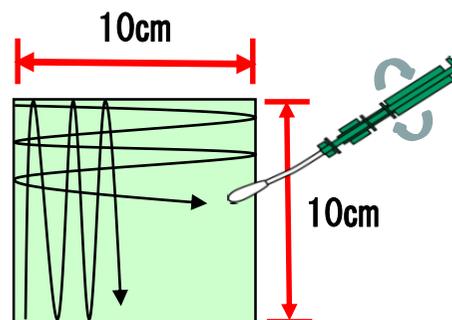
汚れが落ちやすい箇所、
通常の清拭では汚れが落ちにくい箇所がわかり、
洗浄・清拭方法の改善に役立ちます！



基本的な使用方法



■ ふき取り面積は100cm²程度を目安としてください





高頻度手指接触表面を中心に検査します

検査場所、管理基準値およびふき取り方法(例)

検査場所	管理基準値 (RLU)	ふき取り方法
▶ ナースステーション		
ワゴン	500	アーム全体をふき取る
聴診器	500	チェストピース全体をふき取る
血圧計ポンプ	500	ポンプ全体をふき取る
点滴台	500	ハンドル部分全体をふき取る
電話受話器	500	受話器部分全体(内側・外側)をふき取る
パソコン(キーボード)	500	表面全体をふき取る
パソコン(マウス)	500	表面全体をふき取る
冷蔵庫取っ手	500	取っ手全体(内側・外側)をふき取る
▶ 病棟		
オーバーテーブル	500	四隅・中央の10cm四方をふき取る
ドアノブ	500	ドアノブ全体をふき取る
ベッド柵	500	柵上部3ヶ所(右・中央・左)の10cm幅をふき取る
ナースコールボタン	500	ボタン全体をふき取る
スイッチ各種	500	スイッチ全体をふき取る
▶ ME機器周辺		
タッチパネル	500	接触頻度が多い部分10cm四方をふき取る



洗浄後（滅菌前）に検査をします

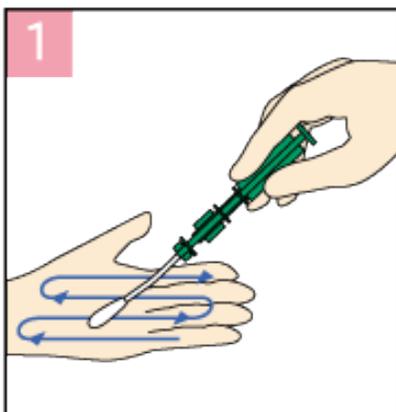
検査場所、管理基準値およびふき取り方法（例）

検査場所	管理基準値 (RLU)	ふき取り方法
▶ 鋼製小物		
凹凸のある部分、ボックスロック部分など	100	手で触れている部分以外の全体をふき取る
構造が複雑な機器など	100	手で触れている部分以外の全体をふき取る
管路のある器材 (ルシスワブ+ルシパック使用)	100	ルシスワブを挿入してふき取る
▶ 消化器内視鏡		
鉗子チャンネル	暫定100	綿棒が挿入可能な範囲をふき取る
吸引チャンネル	暫定100	綿棒を回転させながら、内部全体をしっかりとふき取る
送気・送水チャンネル	暫定100	
先端部	暫定100	レンズ部と先端から外側1cm程度全体をしっかりとふき取る
鉗子チャンネル内部 (ルシスワブ+ルシパック使用)	暫定100	・鉗子から挿入してふき取る ・先端部から挿入してふき取る
▶ 透析装置		
カプラ	100	接続部をふき取る

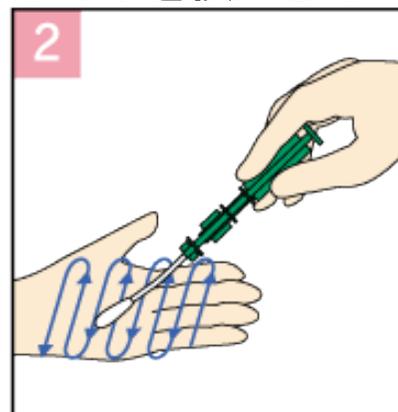


流水で手洗いしたあとにふき取ります

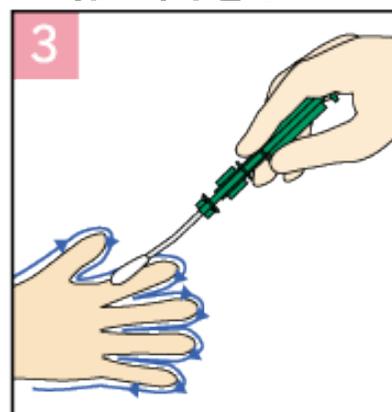
手の平を縦にふく



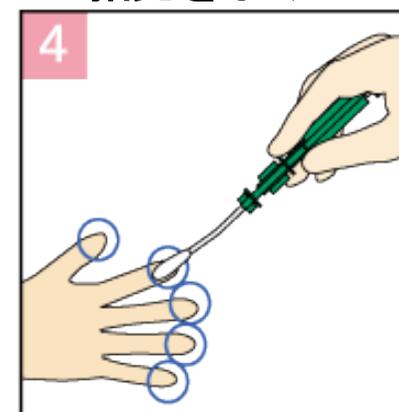
手の平を横にふく



指の間をふく



指先をふく



手洗い後の管理基準値は「2,000RLU以下」を推奨しています。

※ご注意！

擦式アルコール剤の殺菌効果は検証できません。

(ATPふき取り検査(A3法)は菌検査ではありません)

活用事例



活用事例はこちらをクリック
してご覧ください

医療法人社団成扶会
馬見塚デンタルクリニック

日本歯科大学
東京短期大学

